

# ー イノベーションをリードする持続可能な都市づくり ー 多摩ニュータウン地域再生ガイドライン(素案)の概要

## 第1章 ガイドラインの位置付け

### 1 ガイドライン策定の目的

- ✓ 「都市づくりのグランドデザイン」を基に、多摩ニュータウンの再生に向けて、その課題と目指すべき将来像を再生の担い手となる各主体と共有するとともに、再生に向けた都の基本的考え方や取組を示す。

### 2 対象範囲

- ✓ 多摩ニュータウン（周辺地域との関係も含む）

### 3 上位計画と目標年次

- ✓ 「都市づくりのグランドデザイン」で、日本と東京の活力を牽引するエンジンの1つとして、多摩ニュータウンを含む「多摩イノベーション交流ゾーン」を位置づけ。目標年次は、2040年代とする。

## 第2章 多摩ニュータウンの現状と課題

### 1 多摩ニュータウンを取り巻く現状

- ✓ 計画人口を目指して着実に増加
- ✓ 地区毎に整備時期、整備主体、住宅タイプが異なる
- ✓ 地区によっては人口構成に偏り（初期入居地区を中心に、近年高齢化が進行）
- ✓ 初期はベッドタウン的な都市、近年は職住近接型の生活スタイルが実現できるまち
- ✓ 都市基盤や交通サービスなどは充実
- ✓ 緑が多く、良質な住環境が形成、地震にも比較的強い
- ✓ 居住者、進出企業は、緑の豊かさや交通条件について高い評価

### 2 多摩ニュータウン再生の課題

- ✓ 世代構成の偏りの解消
- ✓ 子育て世代の生活利便性の向上、高齢者の移動円滑化
- ✓ 生活スタイルの変化への対応
- ✓ イノベーションに資する業務機能の立地促進
- ✓ 業務施設の更新への対応
- ✓ 住宅の老朽化への対応
- ✓ 公共空間や都市基盤の適切で効率的な維持管理
- ✓ 大規模災害発生時の被害の軽減

## 第3章 2040年代に想定される社会変化への対応

### 1 交通インフラ整備の進展

- ✓ リニア中央新幹線の開業に伴い、産業や居住機能の立地ポテンシャルが向上
- ✓ 多摩都市モノレールなど交通ネットワーク整備の進展
- ✓ 圏央道など、高速道路ネットワーク整備の進展
- ✓ 南多摩尾根幹線の4車線化による沿道への諸機能の立地ポテンシャル向上

### 2 社会状況の変化

- ✓ 高齢者の増加や生産年齢人口減少が進行
- ✓ ダイバーシティの進行によるライフスタイルの多様化
- ✓ 大学における留学生の受入れ拡大や海外からの研究者の増加

### 3 技術革新

- ✓ 自動運転、エネルギー・環境、人工知能、情報・通信などの技術革新が進展

## ＜多摩ニュータウン再生の課題＞

かつて先駆的に整備された生活基盤



住宅の老朽化



近隣センターの衰退



移動を阻害する階段

いまだ残る低未利用地



多摩センター駅周辺



南大沢エリア



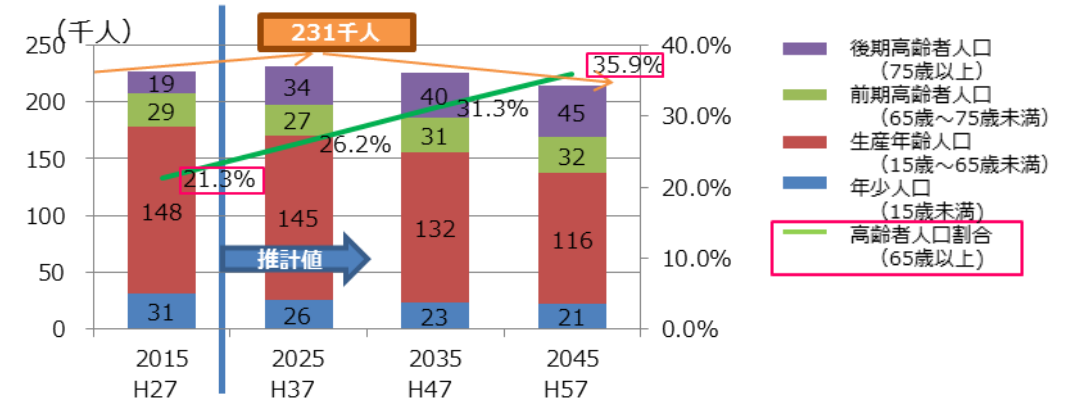
南多摩尾根幹線沿道

## ＜2040年代に想定される社会変化への対応＞

### ✓ 交通インフラ整備の進展



### ✓ 2025年をピークに人口減少に転じ、2040年代には1/3以上を高齢者が占める





2/2